平成２７年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立豊浦中学校　教諭　藤咲美香

１　派遣期日　平成２７年１０月１６日（金）
２　研修先　　会場名　新潟市上越文化会館中ホール
　　所在地　新潟県上越市新光町１丁目９番 10 号
３研修内容

第５７回　関東音楽教育研究会　新潟大会 味わおう音楽を　伝え合おう思いを

（１）研究の基本的な考え方
①「味わおう音楽を」とは
　多様な表現や様々な鑑賞の活動を楽しんだり，心揺さぶられたりする体験を積み重ねることにより，児童生徒の音楽活動への興味・関心は高まっていく。また，児童生徒は，音楽を形作っている要素の働きが生み出す音楽の特徴やよさなどについて，実感を伴いながら感じることで，音楽活動への意欲を高めていく。そして，「この音楽を聴くとこんな感じかするのはなぜだろう」「こんな感じをだすためには，どのような演奏にしたらよいだろう」「もっとよく表現するにはどうしたらいいだろう」というように、自分なりに考え，追求し，意味付けることで，児童生徒が主体的に学んでいく姿のこと。
②「伝え合おう思いを」とは
　音楽活動を通して仲間とアイディアを出し合い，話し合ったり振り返ったりしながら気付きや考えを広げ，それぞれの音楽に対する意味づけから理解を深め，表現を高め合っていく姿を目指すこと。

（２）研究の内容と方法
①音楽のよさを感じとれる題材の構想
・学習意欲を喚起させる題材設定・教材選択
・多様な音楽にふれる，本物の演奏を聴く，経験することによる感動体験
・表現と鑑賞との関連，他教科・多領域との関連を図った題材構成
②音楽を意味付ける活動の工夫
・自分のものとして受け止め，学習の見通しをもたせるねらいや課題の明確化
・主体的に情報を収集する資料の提示
・音や音楽による思考，比較聴衆などの場の設定
・音楽を形づくっている要素とその働きによる自分の気づきや思いを語る，言語活動の場の設定
③音や音楽を介した協働的な学習の推進
・個人，ペア，グループ，全体など，場面に応じた学習形態
・共働的な学習を効果的に進めるための必然性がある課題設定，適切な発問
・主体的に話し合いを深めるための方法・教具

（３）公開授業　第３学年　音楽「表現（歌唱)」　上越市立城西中学校　飯塚　秀樹
①題材名　伝えよう！私たちの合唱　教材名　混声三部合唱「友～旅立ちの時～」

②本大会テーマとの関わり
・テクスチュアや構成に着目しながら，それぞれの声部をどのような強弱速度，言葉の発音で歌ったらよいかを聴き合って表現を工夫する。
・詩や曲想から，表現したい内容について意見交換をし，思いや願いを仲間と話し合う。

③題材の目標

・歌詞の内容（歌詞の言葉の意味，歌詞が表す情景や心情）や曲想に関心をもち，曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組む。
・音楽を形づくっている要素の中から特にテクスチュア，構成，強弱，速度を知覚し，それらの働きが生みだす特質や雰囲気を感受しながら，歌詞の内容や曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫する。
・思いや願いを伝える音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌う。

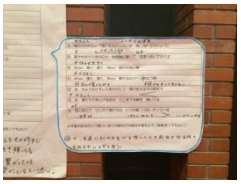
④研究主題に迫るために（指導計画より）

・実践ⅰ

合唱に取り組む第１段階として,詩への共感や詩と音楽の結びつきを知覚したり,充実した響きや旋律の美しさを味わったりできるように，生徒に楽曲を選択させることにより，生徒の主体的な学びを促していく。

・実践ⅱ

各パートに分かれ，パート練習を進めていく。また，同じ歌詞や旋律の繰り返しを手掛かりにして，音楽を形づくっている要素の働きに気づくことができる活動を設定する。フレーズ番号プリントを用意し，声部の役割や構成を視覚的に支援する。



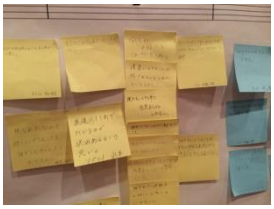
（学習プリントの工夫）

・実践ⅲ

各声部の役割や構成を理解するために，４ヶ所の表現の仕方を取り上げ,「作曲者の思い」「作曲者の意図」「自分は・・・(こう歌いたい）の３種類に分けて付箋に考えを記入できるようにする。

○授業の様子　「単元名　聴き合いながら、繰り返されるフレーズの表現を練りげよう」（第４次　７時間目）

繰り返される４ヶ所のフレーズについての表現方法を練り上げる学習課題であった。前時に記入した３種類の付箋を拡大楽譜に貼り，同じような意見の付箋をまとめ，仲間と意見交換を行いながら授業を進めていた。表現の工夫について仲間の考えを聴き，歌い試しながら進めていた。さらに，聴き役をたて，聴き役となった生徒は演奏を聴いて「何を感じたか」「その理由は何か」「自分や仲間の意図が伝わったか」などを歌い手の生徒に伝えていた。「弱く歌っているが，歌詞の意味が伝わってこない。」「終わりのフレーズは，だんだん大きくするよりも，だんだん小さくする方が歌詞の意味とあっていい」など積極的に表現していた。また，歌い手側も自分たちの感じた思いを発表し，全員で歌い試していく中で,「これはいい」と実感したものを学級全体の表現方法として練り上げていった。



（付箋を活用）

４　感想

今回の研修では，仲間と共に児童生徒が音楽活動を楽しみ，音楽に対する感性を高めていくためのさまざまな実践方法を研修することができた。曲にふさわしい表現の工夫では，主旋律の移り変わりが分かるワークシートの工夫をしたり，付箋の活用や聴き役を立てたりと教師側の手立ての工夫がたくさん見られた。そのような工夫を取り入れていくことで，作曲者の思いや私はこんなふうに歌いたいという，友だちの考えを知ることそして仲間と共有することで，より協働的な音楽学習に取り組むことができるということを学んだ。さらに，授業全体を通して，本時の課題へ迫っていく教師の発問と生徒の発言が大変勉強になった。今回学んだことを，今後の授業実践に生かしていく。

・参考　第５７回関東音楽教育研究会資料より抜粋